

ワークショップ 博物館・美術館・公文書館・図書館の連携

MLA+L デジタルアーカイブの連携とその可能性

2007年11月19日(月) 14:00 - 17:40
慶應義塾大学三田キャンパス 東館6階

【プログラム】 ※ 演題はすべて仮題です

***あいさつ**

慶應義塾大学メディアセンター本部 事務長 平尾 行蔵

***デジタルアーカイブの現状と展望**

- ・国立公文書館におけるデジタルアーカイブの現状と展望
国立公文書館理事 高山 正也
- ・独立行政法人国立美術館における情報〈連携〉の試み
独立行政法人国立美術館情報企画室長 水谷 長志
- ・ニューロインフォマティクスに於けるXooNipsの役割
理化学研究所脳科学総合研究センター
神経情報基盤センター副センター長 小久保 孝弘
- ・慶應義塾大学アートセンターにおけるデジタルアーカイブ
慶應義塾大学アートセンター長 前田 富士男
- ・ブラジル日系移民研究におけるデジタルアーカイブの可能性
慶應義塾大学DMC機構 遠山 緑生
立教大学ラテンアメリカ研究所 丸山 浩明

***アーカイブ連携の可能性**

- ・慶應義塾大学におけるデジタルアーカイブ連携の可能性
慶應義塾大学メディアセンター 入江 伸
- ・「想-IMAGINE」による文化財情報連携の試み
国立情報学研究所連想情報学研究開発センター 丸川 雄三

- 休憩 -

***デジタルアーカイブの抱える問題と整理**

- ・技術的な視点
慶應義塾大学デジタルアーカイブリサーチセンター 櫻村 雅章
- ・法律的な視点
慶應義塾大学DMC機構 石井 美穂
- ・ユーザの視点
(財) デジタルコンテンツ協会 研究主幹
元デジタルアーカイブ推進協議会事務局長 笠羽 晴夫

***国際的なLAMの活動の紹介と提言**

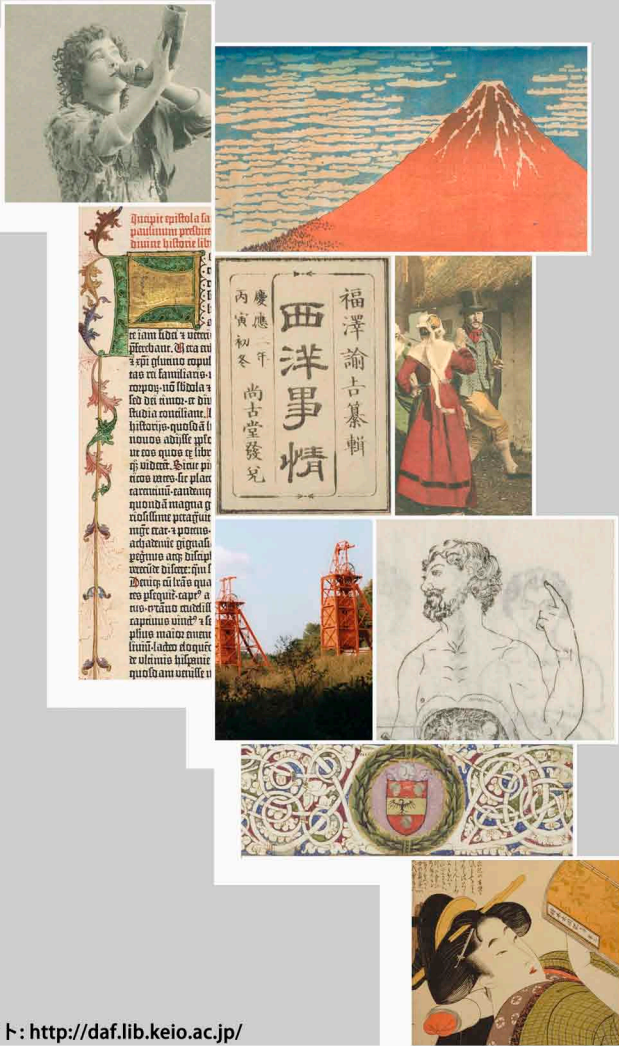
- ・OCLC RLG Programs vice president James Michalko 氏
※ 日本語通訳あり

***質疑応答**

***あいさつ**

慶應義塾大学メディアセンター所長 杉山 伸也

※ ワークショップ終了後に簡単な懇親会を行います。



Webサイト: <http://daf.lib.keio.ac.jp/>

主催 慶應義塾大学学事振興資金
「美術館・博物館・文書館・図書館間でのデジタルアーカイブ相互運用の実践的研究」
共催 慶應義塾大学メディアセンター本部
協力 アート・ドキュメンテーション学会
国立公文書館
国立情報学研究所 連想情報学研究開発センター
理化学研究所脳科学総合研究センター神経情報基盤センター
立教大学ラテンアメリカ研究所 (立教大学SFR)
慶應義塾大学アートセンター
慶應義塾福澤研究センター
慶應義塾大学デジタルアーカイブリサーチセンター(DARC)

*参加ご希望の方は、慶應義塾大学メディアセンター本部 入江 (irie@lib.keio.ac.jp) 宛に以下の内容をお送りください。
件名: 11/19 MLA WS 参加申し込み
内容: 所属 お名前 連絡先メールアドレス 懇親会 参加・不参加